

令和7年度学校経営の総括評価

亀山市立関中学校

今年度重点取組等についての評価結果

※ () 内の%は、肯定的意見の割合を示す

<p>めざす学校像 (学校教育目標)</p>	<p>「豊かな心を持ち、進んで行動する生徒の育成」</p> <p><めざす学校像> ○一人一人の生徒が生き生きと学び活動する学校 ○家庭、地域とともに歩む学校 ○教職員が生きがいを持って働ける学校</p> <p><めざす生徒像> ○自ら挨拶・掃除・勉強をする生徒 ○お互いの違いを認め合って、自分も人も大切にしている生徒 ○仲間や地域のつながりを大切にする生徒 ○自分の夢や目標に向かって粘り強く主体的に行動する生徒</p> <p><めざす教師像> ○授業力の向上に努める教師 ○生徒の思いを大切にする教師 ○保護者や地域との連携を進める教師</p>	
<p>めざす学校像実現 に向けた重点目標 (中長期的目標)</p>	<p>内 容 ・ 評価方法</p> <p>1. 生き方教育の推進 ・人権教育を推進する。・保護者地域へ授業参観等 ・生き方を学ぶ教育を推進する。</p> <p>2. 生きてはたらく学力の向上 ・主体的・対話的な深い学びを創造する。 ・進路に必要な学力保障の取組を進める。 ・読書習慣の形成を図る。 ・家庭での学習習慣の定着を図る。</p> <p>3. 生徒の主体的活動による魅力ある学校づくりの推進 ・「仲間づくり」や教育相談体制を充実させる。 ・生徒の自治的活動を推進する。 ・生徒主体の魅力ある生徒会活動を推進する。 ・関中学校として特色のある取組を進める。</p> <p>4. 学校運営協議会を中心とした学校教育の推進 ・学校運営協議会を活性化し、地域や保護者から信頼される学校づくりを進める。 ・学校だよりやHPにより学校情報の発信に努める。 ・授業や行事の公開と学校改善の取組を進める。 ・校区の小学校、認定こども園との連携を行う。</p> <p>5. 主体的・対話的で深い学びに向けた研修の充実 ・研修体制の充実を図る。 ・生徒を中心に据えた授業研究を推進する。</p> <p>6. 教育環境等の整備の推進 ・安心安全な教育環境整備を推進する。 ・学校教育活動や校務内容を見直し、教職員の働き方改革を推進する。 ・意欲が持てる職場環境づくりに努める。</p>	<p>今年度末の進捗状況 ※詳細は別紙「行動計画進捗状況」</p> <p>・人権教育推進委員会を毎週開催、取組の確認、生徒情報交換ができた。 ・9年間を見通した人権教育が推進できた。(生徒86%、保護者89%) ・性、進路、共生等の生き方を学ぶ講演会や学習会を実施できた。</p> <p>・朝の学習や朝の読書の実施。自習タイム、キュビナタイム等の実施。 ・テスト期間の放課後質問タイム9回実施、夏休み補充学習実施 ・「家庭学習の定着」(生徒69% 保護者66%) ※昨年度より5%増加 ・図書館の年間貸出冊数生徒一人当たり年間23.88冊(2月末)図書委員会の主体的活動成果が表れた。</p> <p>・SCによる相談体制や担任による教育相談を強化、関係機関との連携 ・「先生に相談しやすい」(生徒71%、保護者92%) ・あいさつ運動などSKRA運動の取組を推進、あいさつの意義の議論 ・「ボランティア活動に参加」(生徒40%、保護者53%) ・「学校は楽しい」(生徒85% 保護者91%)</p> <p>・「学校方針等の説明・発信」(保護者90%) ・学校運営協議会を年4回開催 教職員との交流会で話し合い ・学校だより28号まで発行し、HPを随時更新(3月初め) ・保護者や地域への学校公開を積極的に行った。 ・4月と11月授業参観、教育懇談会、体育祭、文化祭の公開 ・小学校や認定こども園との交流会を実施</p> <p>・ミニ公開授業を含め、学期ごとに全職員が授業を公開し、指導案検討や事後検討会を通して、組織的に校内研修を進められた。 ・学習指導要領に沿った授業改善と評価についての研修、全国学力状況調査やみえスタなどの分析を行い、課題に対して授業改善を行った。</p> <p>・「施設を大切にしている」(生徒94%)「災害時の行動マニュアルの周知」(保護者96%)、地域との協働で避難所開設訓練の実施。 ・時間外労働時間昨年に比べて減少。26.2h(2月末) ※昨年度比-4.3h ・各学年・分掌との連携・対応(教職員100%) ・気軽に話し合える職場の人間関係(教職員93%)</p>
<p>主な観点</p>	<p>今年度の主な取組成果</p>	<p>今年度の取組課題</p>
<p>学習指導 (外国語教育含む)</p>	<p>○朝読、朝学の取組による落ち着いた学習環境の確保(生徒96%) ○めあての提示とふりかえりを行い、書く力がついてきた。 ○自習タイム、キュビナタイムの設定。放課後学習、補充学習の充実 ○全教員が授業公開を行い、課題等を共有し授業改善を行った。</p>	<p>○朝読、朝学の落ち着いた学習環境づくりの継続 ○ペア学習、グループ学習を積極的に取り入れた対話的で協働的な学びの推進、めあて(ルーブリック)の活用 ○家庭学習につながる主体的に取り組める課題の提示</p>
<p>読書活動</p>	<p>○朝読書や国語科での図書館学習を通し、継続して読書に取り組む姿勢をつくった。図書館司書や委員会活動により、中庭図書館などの定期的にイベントを開催し、親しみやすい図書館になっている。</p>	<p>○学校以外で読書をする生徒は依然として少なく、貸出冊数ほど生徒に読書が浸透していない。 ○貸出冊数の個人差</p>
<p>生徒指導 進路指導</p>	<p>○不登校事案等に対する教育委員会や子ども支援G等の関係機関との連携強化と個に応じた支援の充実、定期的な支援会議の開催 ○進路学習を通して、進路実現に向けた学習を進めたり、調べたりできた。 ○職場体験学習を実施した。キャリア学習講演会、出会い学習等、全学年での進路適性検査の実施。家庭との連携・取り組みの周知。</p>	<p>○生徒指導の初期対応と適切なサポート体制の継続 ○報告連絡相談の徹底、学校・家庭・地域の連携の強化 ○進路実現のため、表現力の育成や安心して学べる仲間づくりや環境づくり ○地域人材を活用したキャリア教育等の実施</p>
<p>学力向上 少人数指導</p>	<p>○朝の読書、朝の学習の実施により、継続して取り組む姿勢 ○自習タイム、質問タイム等の補充学習における学力向上、主体的な学び、学力調査の分析、本校の課題を克服するための具体的な取り組みの共有 ○落ち着いた学習環境づくり、少人数できめ細やかな授業の実施</p>	<p>○めあて、振り返りの活用、個に応じた指導や支援の検討 ○家庭学習の定着と基礎学力向上の取組(自習タイムの継続、質問タイムの工夫)メディアコントロールの工夫 ○学力テスト等の分析結果の共有と具体的な対策・実施</p>
<p>ICTの活用</p>	<p>○授業におけるタブレット端末の利用の推進 ○ICTを利用した個別最適な学びやグループ学習の在り方の研修</p>	<p>○タブレットを活用した主体的学習課題の検討 ○キュビナ等の積極的な活用、家庭学習の推進</p>
<p>危機管理 保健安全</p>	<p>○インターネットやSNS等を介する危機管理についての学習 ○地域と連携した避難所開設訓練の実施○災害時行動マニュアルの周知 ○保健室、委員会からの情報発信の推進(スマホの使用法や時間)</p>	<p>○危機管理マニュアルの整備や日常的な安全点検の徹底 ○大規模地震に対する地域連携の取り組みの実施・改善 ○SNSの使用啓発(家庭のルール等について)</p>
<p>人権教育</p>	<p>○地域人材を活用した出会い学習の実施 ○校区教職員人権学習や人権フォーラムの実施 ○人権担当者を中心とした計画的な人権学習の実施、便り発行による啓発</p>	<p>○出会い学習による学びの充実(生き方学習) ○ヒューマンライツ等人権活動の充実、周知 ○校区人権ネットワーク協議会の活動の充実</p>

特別支援教育	○特別支援教育推進委員会を中心とした生徒の情報交換と適切な対応 ○教育支援計画や指導計画に沿った指導支援の共通理解の推進 ○生徒や保護者の思いに寄り添った進路指導	○特別支援生徒の情報交換とケース会議の充実 ○個に応じた適切な指導や支援の検討と指導体制の確立 ○特別支援教育の充実のための教職員研修
保幼認小連携	○積極的に授業連携や授業参観を行う ○交流会の実施	○授業参観や交流会を定期的実施、公開、発信
道徳教育 食育	○公開研究授業の実施による授業改善と保護者に向けた授業公開 ○栄養教諭による食育の実施 ○学校だよりによる情報発信	○自分の意見を表現し多様な考えや思いを交流する。新たな考えや心情の変容を生み出すための授業改善
服務規律	○教職員研修の実施、職場の同僚性を高め、協働できる組織作り	○コンプライアンス研修の実施、話し合いによる気づき
社会に開かれた教育課程	○地域の事業所等職場体験学習の実施 ○地域・学校と協働した避難所開設訓練の実施 ○学校だよりやCS通信、ホームページによる情報発信と工夫	○授業参観等の学校公開日程の工夫 ○HPのタイムリーな更新、学校たより等の工夫等で、学校の様子を地域や保護者に知ってもらう
学校運営協議会	○学校運営協議会を年4回開催、学校運営や行事についての検討 ○教職員交流会の実施、学校運営や教育活動、地域についての話し合い	○保護者や地域住民と協働した学校教育活動の実施 ○学校運営や学校課題に対する話し合いの継続
人材育成	○各学年・各分掌の連携と諸課題への適切な対応を目指して、上司や同僚の支援を受けて職務を遂行	○適正な校務分掌の分担、意欲的に職務に取り組める環境づくり、組織的に動く体制づくり
働き方の意識改革	○会議時間の短縮(勤務時間内に終了)○部活動休止日や部活時間の徹底 ○定時退校日の履行確認	○仕事の調整と働き方改革の意識の醸成 ○業務精選と見直し、勤務時間のガイドラインの遵守

2 組織の状態についての評価結果

	学校自己評価等から明らかになった状況
強み	○生徒数が少なく、学年を越えた交流をしやすい。全校生徒がお互いのことをよく知っている。全職員が生徒の様子を把握し対応することができる。 ○地域の学校として、地域の支えがある。沖縄への修学旅行を行い平和学習に力を入れている。人権出会い学習に積極的に取り組んでいる。 ○環境に恵まれ、授業や行事に熱心に取り組む。落ち着いた学校生活を送ることのできる生徒が多い。
弱み	○こども園、小学校からメンバーが同じで、生徒同士の関係や見方が固定してしまっている。コミュニケーションが限定的である。 ○教員数が少なく、校務分掌の偏りによる負担の集中がある。部活動の運営が難しい。 ○主体的に学習に取り組むこと、自分の考えや意見を表現することが苦手である。SNS利用時間が多く、家庭学習の定着がなされていない。

3 学校関係者による評価結果（学校関係者は、CSによる学校評価に基づく改善策を提示後の意見やさらなる改善策を明記）

自己評価の適切さ	改善策の適切さ
<ul style="list-style-type: none"> ・個別の人権課題も含めて、人権学習等に全学年でしっかりと取り組んでいる。人権教育についての情報発信もよかった。地区学などでも取り組みをアピールするのいいと思う。 ・学校運営協議会において活発な意見交換ができた。地域の人とよりよい学校づくりについて内容のある話し合いができた。教職員との交流会はとても良かったと思います。 ・校内研修は、学校全体でとりくんでいる。教職員で生徒が主体的に取り組む授業づくりについてよく討議されていると感じる。 ・キャリア教育において進路適性検査は家庭を巻き込んで取り組んでいて、親子で進路について話すきっかけになりとてもよかった。丁寧に学校は指導していると感じている。 ・学校での読書時間がきっかけで、自宅でも本を読む姿が見られた。中庭図書館などの取り組みは興味深い。挨拶が定着している学校だと思う。 ・生徒指導において、努力を認められていると感じる生徒、努力を認めている先生の増加が素晴らしい。SCから助言をもらうという取り組みもよいと思う。 ・学校だよりで、学校の様子や取り組みが良くわかる。生徒の感想などもあり、生の学校生活を知ることができていると感じる。 ・夏休みの福祉体験、街頭募金活動、アルミ缶回収など、積極的に活動している。ボランティア活動に関しての関心が低いわけではない。 ・今年度も防災学習、人権学習、福祉体験など、地域団体、組織、個人を数多く学校に招き、講師として生徒の学習に役立っている。今後も学校・保護者住民が一体となった教育活動を実践し、地域に開かれた学校経営をしてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・繰り返し人権学習を行い、人権感覚を磨いていくことが必要である。出会い学習前の事前学習にも力を入れてほしい。保護者へ人権課題のアンケートを取ることで人権への意識が高まるのではないかな。 ・学校運営協議会が良く機能している。学校運営協議会の開催回数を増やすなど、もっと綿密に協議する方法を導入するのはどうか。また、学校が困っていることを知り、いろんな立場の人が手伝うことが必要である。来年度は、関中の現状を示し学校の諸課題をテーマにした会議にしてみてもどうか。(スマホの利用、いじめ、不登校の実態とその支援、特別な支援を必要とする生徒の現状、小規模特認校制度への取り組みの可否、休日部活動についての取り組み等について、等) ・働き方への意識改革も大切だが、校内研修の充実、自主的に研修に取り組める体制づくり、人材育成にも力を入れる必要がある。 ・学力向上に関して、外部講師として授業を行ったときに、生徒から感想等をもらうが表現力に課題を感じる。国語能力の育成をもっとできないか。自分の意見を述べる機会を設定するとともに、なんでも話せる、聴いてもらえるといった学級集団作りが大切だと思う。考えや思いを伝えあう機会を多くとり、表現力をつけるため取り組みを、教員で共通理解して行うことが必要だと思う。 ・キャリア教育の職業体験の選択肢はもう少し多い方がいいのではないかな。教育委員会を通して、亀山市雇用対策協議会に働きかけてはどうか。 ・ボランティア活動は、生徒が参加しやすい曜日や掃除の時間、放課後の時間を設けるのがいいのではないかな。
学校関係者との対話（＝評価）等から明らかになった改善課題	
<ul style="list-style-type: none"> ・小規模の学校だからこそできることが関中の特色である。地域とのつながりを大切にしたい学校づくりを進める。 ・生徒の主体性を大切にして、学力向上、人権学習、生き方教育などをすすめ、他者とのかわりの中で自己肯定感を涵養する。 ・基本的な生活習慣の確立、教育相談、生徒指導などの充実、地域・関係機関との連携、一人ひとりに居場所を感じられるような学校、学級づくりを進める。 	

4 次年度の重点改善事項

① 生き方教育	○関中校区や小中高の連携と保護者や地域住民の参加による防災・人権学習の実施、非認知能力の育成 ○将来の夢や希望が持てる地域と連携協力した職場体験学習やキャリア学習の充実
② 学力の向上	○主体的・対話的で深い学びのある授業実践、めあて（評価基準）や振り返りの活用、朝学習や放課後の補充学習の充実 ○家庭学習の定着化と内容の充実、効果的なICTの活用
③ 魅力ある学校	○生徒の自治的主体的な活動を重視した魅力ある学校づくり、修学旅行を核とした平和学習の充実 ○安全・安心で一人ひとりの居場所のある学校づくり、教員と生徒の信頼関係の構築、地域人材を活用した人権出会い学習の充実
④ 研修の充実	○主体的・対話的で深い学びの学習スタイルの構築、生徒の主体性を引き出す学力向上を目指した授業改善 ○教師の研修に対する意識向上と学び合い、評価基準（ルーブリック）の効果的な活用と研修の充実
⑤ 開かれた学校	○学校運営協議会を中心とした学校運営の推進、学校運営協議会委員と教職員交流会の開催 ○地域や保護者と連携した体験的で主体的な学習活動の充実、PTAバザーを活用した地域交流
⑥ チーム関中の実践	○同僚性（協働性）の向上、組織的・意欲的に働ける職場環境づくり、校務の効率化等による勤務時間の縮減

